

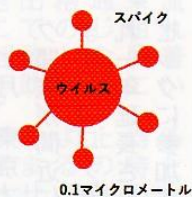
# 医師は語る



医療法人社団健翔会  
堀口医院 理事長  
堀口 裕 先生

## 新型コロナウイルスの出現

二〇一九年一二月末から新型コロナウイルスが現れ、その後あつと言間に世界中へ広がりました。一年半経過した今でも、まだ終息していません。これまでに世界の感染者数は一億七〇〇〇万人以上、死亡者数三七〇万人以上になりました。人類にとって、本当に恐ろしい感染症となりました。一般にウイルスは人と比べてはるかに小さく、やっと電子顕微鏡でみえる程度（〇・一マイクロメートル・人の身長が一六五cmなら一六五〇万分の二）です。それが人を死に追いやるのは誠に恐ろしい生き物です。



## 人間が生き残る方法

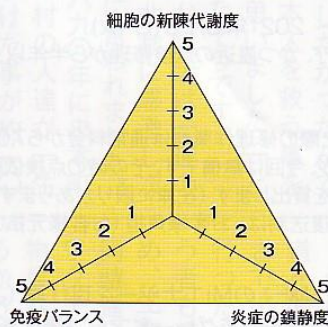
しかし地球上からウイルスを排除することはできません。むしろ私たちの知らないウイルスが、今後も沢山発生すると思います。それなら私たちが生き残れる方法は一つしかありません。私たちがいかなるウイルス

に遭遇しようとも、そしてたとえ感染を受けたとしても、必ず快復できる能力を高めることです。このような能力を自己防御力と呼んでいます。これはウイルス感染症にかかわらず、すべての病気について言えることです。つまり重篤（じゅうとく）な病状に陥らないように、病気を抑えていく（健康を維持していく）力強さを持つことが重要です。

## 自己防御力診断を受ける

具体的には、まず①細胞の新陳代謝をできるだけ良くすること。人の体はどの部位も細胞の集まりです。すべての細胞が元気であるなら、そもそも病気になるしません。次に②免疫力を、整えること。これは細胞を護る兵隊です。ウイルスをはねのけ、不要なものを片付け、細胞の修復を助けます。新型コロナウイルス感染症の場合も、免疫力が盤石なら重篤になることはありません。そして③体に炎症を残さないこと。これは日常生活で起こるすべてのこと、たとえば仕事を、学校で勉強する、運動する、様々な人と協調して過ごす、事故で負傷するなど、生活のあらゆる場面で体に炎症が発生します。つまり「生きることは、体に炎症を起こすこと」なのです。この炎症が強いと細胞が壊れ、細胞が病気になるります。当然ウイルス感染も炎症を起こしますが、ときに想像をは

るかに超える炎症になります。日頃から炎症を残さないことが大切です。ところで自己防御力が丈夫か否かは、自覚症状ではわかりません。実際に一人一人が検査を受けて評価します。検査を受ける目安ですが、病気を抱えていない場合一年に一回です。すでに病気で療養中の場合は、半年に一回受けてください。



## 還元電子治療の実践

自己防御力の良し悪しは、日常生活により大きく左右されます。簡単には心身のストレス・過労が続けば悪化し、反対にリラックスを心掛ければ良くなります。私のライフワークになっている還元電子治療は、自己防御力を回復・維持する目的でつくられました。在宅で実践されている人は、必ず毎日行ってください。日々のストレス・過労が著しく大きい場合、あるいは自己防御力診断が不合格の場合、さらに自己防御力診断が合格でも持病がある場合は、治療時間一回二〇分で一日三回以上です。すでに重い持病を持っている場

合は一日五回以上です。もし痛を患っているなら一日七回です。なお還元電子治療器を二台用いて同時治療を行うと、自己防御力の回復がより速やかになります。むしろこちらのあて方が、これからの主流になります。



## ワクチンを接種する方へ

ウイルスや細菌の感染症に対するワクチンを接種する場合は、以下の点に注意してください。

- 一、ワクチンを接種する前三日間には十分に睡眠を取ってください。
- 二、ワクチンを接種した後三日間は安静に過ごしてください。
- 三、ワクチンを接種する前、した後の還元電子治療は行つて構いません。

ワクチン接種とは、故意に体に異物をいれることを意味します。ですから速やかに免疫反応が起こります。もともと免疫バランスが整っている場合は問題ないのですが、何らかの理由で免疫バランスが悪い場合は、ひどい炎症を起こします。これがきっかけとなって関節痛、頭痛、寒気、けだるさ、発熱、吐き気などで

ます。いわゆる副反応がで  
ます。これをできるだけ少  
なくするためには、ワクチ  
ン接種前から体調を整える  
こと、またワクチン接種後  
に安静を保つことです。還  
元電子治療は免疫バランス  
を整えるのに、きわめて重  
要な治療です。ワクチン接  
種にかかわらず、日頃から  
還元電子治療をしつかり  
行ってください。



【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部  
卒業。一九九二年香川県坂出市で  
医療法人社団健翔会堀口医院を開  
院、現在は理事長兼院長を務める。  
長年に亘り、空気中のネガティ  
イオンに関する生理的作用を研究、  
独自に開発された細胞内検査と還  
元電子療法を駆使した、根元（ね  
もと）医療という新しい医療を推  
進し、国内外で活躍している。